

設立当時の思い出

(特別寄稿)



50年おめでとうございます

三木市体育協会副会長 中嶋将雄

初めに、書き上げた原稿にあまり間違いがあつてはいけなないと、三木市体育協会「30年のあゆみ」に目を通してびっくりしました。

「10年一昔」とはよくいったもので、体協発足当時の思い出話を書くことは、とても無理で、自分がいかに不勉強であったかを思い知らされました。

三木市体育協会の初代会長、故井本政夫氏(8年)、2代目会長、衣巻顕明氏(5年)の時代には、私は体育協会の運営には、まったく携わっていませんでした。

三木市が誕生した昭和29年は、まだ学校を卒業したばかりで「三木卓球クラブ」の諸先輩にいろいろお世話になりながら、「三木市卓球協会」を発足させ、新役員の皆様も卓球協会の運営だけで頭がいっぱいでした。

昭和28年(まだ学生でしたが)当時の卓球にちょっとふれてみたいと思います。

日本の卓球は、当時、世界を制覇していました。第19回世界卓球選手権大会では、男子シングルスで藤井選手が、ダブルスで藤井、青木組が優勝を飾っていました。その頃、マッカーサー元帥杯という全国大会がありましたが、その代表選手に選ばれるには、地区予選でシングルのベスト4に入らなければなりませんでした。

早朝より行われたマッカーサー元帥杯大阪予選も夕方となり、いよいよ準々決勝です。対戦相手は世界の青木選手で、結果は幸いにも私が選ばれました。その時の会場でのいろいろな出来事は今も忘れることができません。それは、会場の誰もが青木選手が勝つと思っていたからです。

当時の私は、毎日4時間以上の練習を欠かす事はありませんでした。まだ若い時です。他にもやりたい事がたくさんありましたが、何もできませんでした。でも今、それで良かったと思っています。

3代目の鷺尾弘志現会長になってから、市体育協会に少しずつ関わるようになりました。7種目でスタートした三木市体育協会は、現在16種目の加盟団体となり、鷺尾会長を中心に各種目でそれぞれ目ざましい活躍がなされています。

三木市に在住もしくは市内の企業に勤務されている皆様が自分の好きなスポーツを通して、心と身体を鍛え、少しでも幸せな人生を送って頂きたいと役員・理事全員ががんばっています。

この50年を機に、市民に愛される協会として、さらに発展させていくことを心より願っております。

三木市卓球協会

〔設立年度〕 昭和29年7月1日

〔事務局〕 三木市別所町東這田538 澤田方

〔加盟会員数〕(市内愛好者数) 約500名

〔現役員〕 会 長 中嶋将雄

副会長 森田博則

事務局 澤田 勝

顧 問 藤原正明 平井基一 土出 勝 寺本興道

理 事 山本晃一 木下安男 平上文洋 宮本敦子

武庫富美子 岩崎 誠 金川政広 塩谷英雄

佐野宜規 佐々木良憲 岡田茂美 氏田俊子

吉永紀子

●創設期からのあゆみ(昭和から平成へ)

三木市卓球協会は、昭和29年6月1日三木市制施行の1ヶ月後に結成された体育協会に併せて誕生しました。市制、体育協会と同じ年月を歩んでいる卓球協会も50年の歴史を刻んできたと思うと感慨深くなります。

さて、昭和29年発足時のささやかな大会開催から、昭和43年役員の充実、昭和52年勤労者体育センター竣工時に発足した三木卓球クラブは、毎土曜日に活動を開始。昭和63年の教育委員会主催で行ったジュニア卓球教室を契機に、平成元年に発足した三木卓球クラブジュニアは定着化し、小学生部門のバンビ、カブ、ホープスの部で県大会、全国大会出場という成果をあげています。

昭和55年には、年2回開催の市民大会に加えランキング戦、ランク別と市民大会を増やし、年間大会を4回開催とし、卓球愛好者により多くの相互親睦、体力・技術の向上の機会を提供するという努力をしました。

また、平成9年から市外の卓球愛好者との親睦、そしてより高い技術向上を目指し、みっきいレデ



みっきいオープン大会(平成15年)

ィースオープン、みっきいオープン大会を開催し、平成15年のみっきいオープン大会団体戦には、全日本ランク9位(世界ランキング84位[H16.10.1時点])の明石市在住の加山兵伍選手の参加もあり、他市からもレベルの高い大会との評価を頂いています。2つのオープン大会を含め年間主要大会は5大会となり、役員も年を追うごとに忙しく、しかし反面やり甲斐のある大会運営となりました。

大会運営以外にも平成10年前後から中学生選

手の強化として、夏休みの初めの2日間に協会役員と協力スタッフをかき集めて、中学校への出前練習会としてジュニア選手強化練習会を開催し、著名選手等を招くよりも、基本技術とマナーを本協会役員自身の手作りで、しっかり教えるという考えで中学生選手のレベルアップを図っています。



ジュニア選手強化練習会

小学生、中学生のジュニアだけでなく、大人の卓球愛好者への卓球教室、講習会も教育委員会、公民館等からの要請を受け毎年1回は開催してきました。

このように地域の子供の育成また生涯スポーツとして楽しみたいという愛好者に対する技術普及・指導を目的とした卓球教室、講習会の要請を数多く受けることから私達協会役員は、これからの技術普及・指導は個々の経験則だけでなく、指導スキルの標準化が必要だと考え、日本体育協会公認「地域スポーツ指導員」資格を取得し(役員16人中6名取得)自らも指導知識・技術を磨く努力を行ってきました。

●現在の活動状況(この10年間)

三木市卓球協会において、この10年間でのトピックスはなんとといっても、「みっきいリーグ」と「三木市卓球協会ホームページ」開設の2点です。

まず、みっきいリーグは、平成9年12月子供の卓球合宿での役員反省会(または懇親会という)で、選手を強くするには、試合経験を積ますこと

も重要だが、多くの試合に出るためには神戸市などに出かけなければならない、と出るのはグチばかりでした。

そこから、「何も街に出なくても三木でリーグ戦をやろう」ということになり、その場で早速構想を練りまとめ、年明けの平成10年1月から各地域卓球サークルへ参加を呼び掛け、2、3月はプレリーグ戦を行い、4月より本リーグ戦として開催をしました。リーグ戦は、男女区別も大人と子供という区別も全くありません。純粋に実力に応じランク別としました。ランク別により、初心者から実力者までの幅広い層が、同じレベルの愛好者同士が楽しく、また、競いあって試合ができるシステムとして提供し、初心者でも気軽に楽しんで試合ができ、卓球愛好者の底辺を拡大することを目的としました。毎月1～5部と6～10部の2回に分けて開催し、平成10年開始からの延べ参加人数は、平成15年度末で3714人、7年目の現在10月末で約4200人を突破しました。



三木市卓球協会ホームページ

2点目の三木市卓球協会ホームページは、みっきいリーグの結果とか開催予定の連絡をスピーディーに参加者に伝えたい、また協会の大会案内、大会結果も卓球愛好者に伝えたいという思いから、仕事の腕を活かし、兵庫県下卓球協会初、三木市体育協会内初として平成12年4月10日に開設しました。

また、この10年間で嬉しかった戦績としては、

昭和 29 年本市体育協会結成と同年から、毎年 1 回開催されている東播地域の 7 つの各市卓球協会による「東播七市親善卓球大会」において、あの阪神淡路大震災があった平成 7 年から 9 年に掛けて三木市代表は 3 年連続優勝を果たし、卓球協会として非常に感激した出来事と記憶しています。

●将来への展望

昭和の終わりから平成 16 年にかけての卓球協会の活動は、運営大会の拡充、小中学生に対する選手育成と生涯スポーツとして明るく楽しみたいという愛好者に対する技術指導、定例リーグ戦の定着による「いつでも卓球にふれあえる」機会を作ることに努めてきた充実期だと思います。

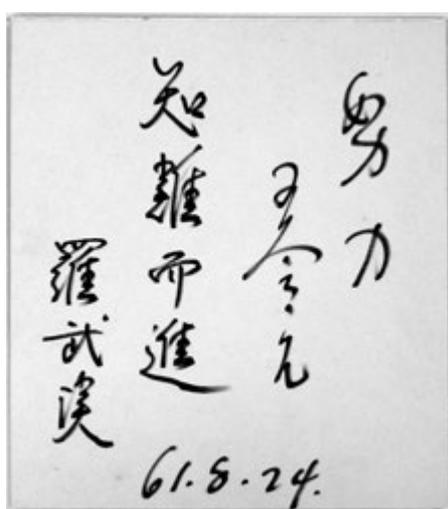
これからも、卓球愛好者だけにとどまらず、より多くの人たちが卓球とふれあえる機会をもっと増やしたいと考えています。さらに充実期に新しく取り組んできた事を改良し、若い指導者の育成にも取り組み、色々なことにチャレンジし、これからもより沢山人達が卓球を楽しめるよう、卓球の街「三木」を目指して取り組んでいきたいと考えています。



東播七市親善卓球大会初優勝の表彰状（平成 7 年）



東播七市親善卓球大会 初優勝（平成 7 年）加西市



選手強化練習会（昭和 61 年）
講師 王会元・羅武漢のサイン色紙
（元中国ナショナルチーム）





▲ 野 球

堂々の優勝 場内行進 (三木ユニオンズ)

マグナルドカップ第35回兵庫県学童軟式野球兵庫県決勝大会 (平成16年7月 三木山)



▲ 卓 球

三木市卓球協会役員と応援にきて頂いた指導者の皆さん

卓球ジュニア選手強化練習会(平成16年7月)

バレーボール ▶

コートをはさんで白熱のプレー
これぞバレーの醍醐味

体育協会50周年記念大会
(平成16年)

